

表紙から

ポニーとふれあう 福移小中学校

新しい一年の始まりです。今年
は午年。広い草原を走り回る馬の
ように、元気いっぱいのに年にした
いものです。今月の表紙は、福移小
学校の五年生の皆さんと今年のえ
とであるポニーの「リリー」です。
福移小中学校は全市から児童が通
学する特認校で、中学校と併置さ
れています。一つの学年に一つの
クラスで、一クラスの定員も二十
人という小さな小学校。同校はポ
ニーを飼っている市内で唯一の学
校です。ほかにもアヒルやガチョ
ウなどを飼っていて、児童は動物
との触れ合いを楽しんでいます。
最初は怖がっていた子も、慣れてく

元気に走り回るリリー



るとかわいくなって、えさをあげ
たりするようになるそうです。

七月までは、お母さんポニーの
「モモ」も一緒にでしたが、モモはひ
づめを悪くしたため牧場で療養し
ていて、現在学校にいるのはリリ
ー一頭になってしまいました。

「モモと離ればなれになって寂
しい。リリーにはこれからもえさ
をあげたり、一緒に遊んだりしたい」
「だんだん慣れてきてくれた感じが
する。ずっと一緒にいたい」と五
年生の皆さんは、今後もリリーと
の触れ合いを楽しみにしています。
五年生は、ほとんどの児童が午
年生まれ。「最上級生になるので
下級生の面倒を見てあげたい」「早
く平和な世界になってほしい」な
どと思いに今年目標や希望
を話してくれました。

東区のサツポ口さくらんど（丘
珠町五八四番地）内にある「ふれあ
い牧場」では、馬やウサギ、羊な
どと直接触れ合うことができます
（冬季は見学のみ）。また、一月中
旬から三月上旬までの土曜・日曜・
祝日には、馬そりの無料運行を行
います。一度出かけてみて、動物
たちとの触れ合いを楽しんではい
かがでしょうか。

ひが すとりー

第10回

東区工業小史 菓子工業（一）

懐かしいキャラメル

フルヤのキャラメル。このお菓
子を懐かしく思い出す方がたくさ
んいるのではないのでしょうか。子
どものころ、リュックサックに入
れて、遠足やスキーに行った人も
多いことでしょう。東区に本社と
工場を置いていた古谷製菓は、菓
子製造の道内トップ企業でした。

小売りから製造販売へ

古谷製菓の創始者は古谷辰四郎
です。一八九九（明治三十二）年
南二条西五丁目（狸小路）に○古
谷辰四郎商店を開いて乾物類の小
売りを始めました。一九一四（明
治三十七）年には店舗を南一条西
一丁目に移し、米穀、乾物類、雑
貨類の卸問屋を営みます。

古谷は、信用第一をモットーに
業績を伸ばしましたが、卸売りの
限界を悟って、製造販売へ転換し
ます。一九一七（明治四十）年、精
米所と白玉粉を製造する工場を中
島公園近くの創成川のそばに建て
ました。一九二二（大正元）年に

この工場を北五条西五丁目に移し、
規模を拡大して、精米と黒砂糖の
精製加工を行いました。この時の
砂糖加工が後のキャラメル製造へ
の第一歩となったのです。

キャンデーをつくる

大正時代を迎えた札幌では、乳
製品が製造・販売されたり、洋食
屋が次々に開店したりします。
人々の食生活も洋風化されてきた
のです。食生活が変化する中、古
谷は菓子製造に着手しました。

一九一七（大正六）年、現在の
東区北六条東十一丁目に水あめ工
場を建設。翌年、○キャンデーの
銘柄で機械生産し、発売しまし
た。原料は麦芽糖とジャガイモか
ら取れるでんぷんです。ゼリー状
のあめをさいころの形に切ってオ



古谷の工場（大正7年ころ）

ブレードに包み、乾
燥させた後にポケッ
ト状の箱に入れまし
た。価格は二十四個
の箱入りで十銭。高
級品でしたが、道内
でよく売れました。